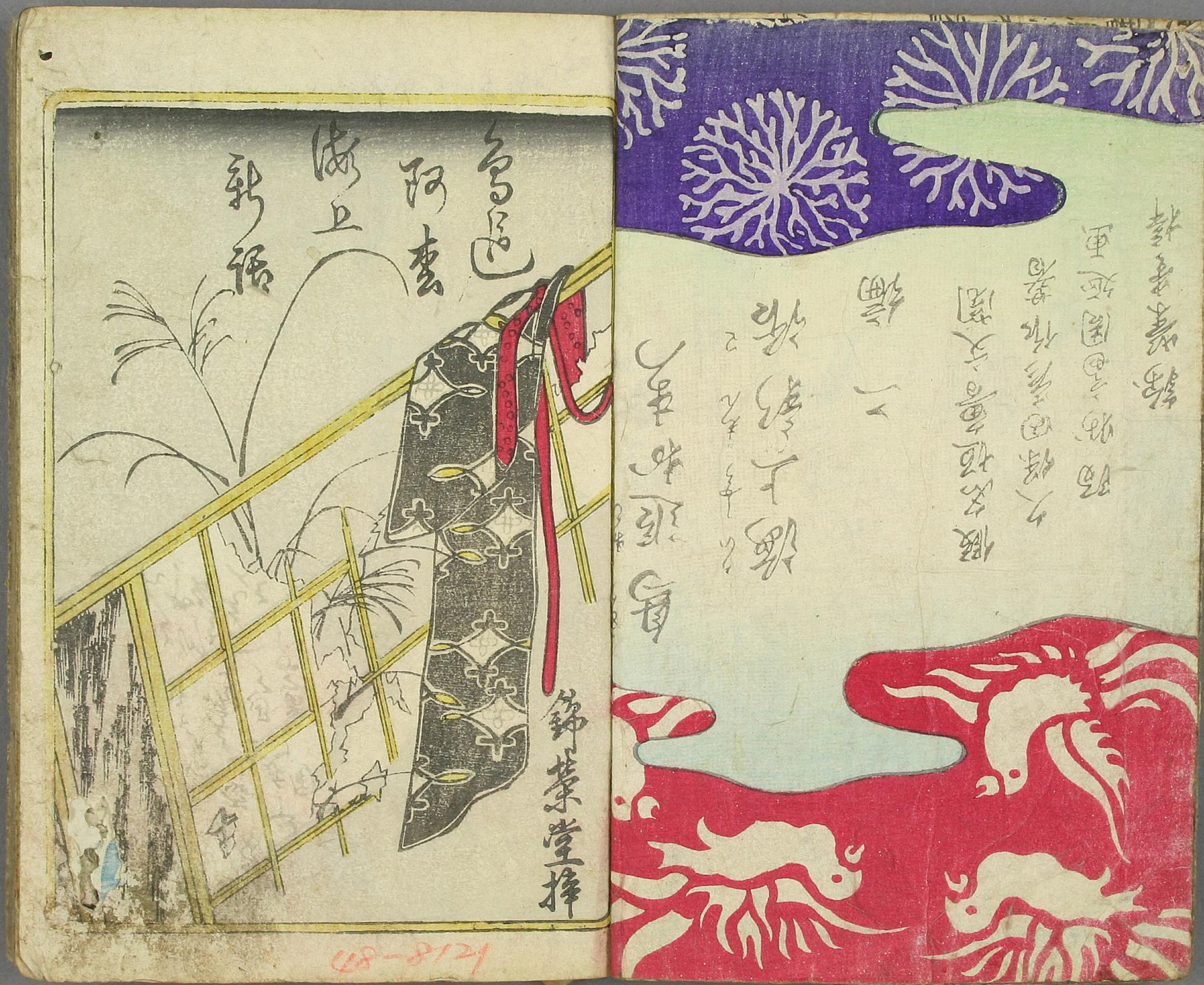
作画 一生利益
作画 婦女
作画 神代
作画 浦嶋
同 初同 二同 三同
同 初同 二同 三同



48-8121

A449
2

浦島説向

株屋

俳名姫夢文閣
久保田彦作作
錦葉堂夢樽

千住
二篇中
二篇上

新年告る鶯の。先を拂ひ〳〵鳥追も。今い昔の春とぞなり。ある。勤番の唾涎い髭を傳ふて長く。海上遥の音い三絃のいと細し。拔衷を巡廻りて新道ゐ至り。多錢貫ひ得わり。馴染の門と一絶の狂詩當時の形容を看るゐ足る。阿松ゞ傳の長物語。久し〳〵續け〳〵久保田の筆ゞ。諸君の御意ゐかゑ讀新聞。その結局を二帙ゑ納めて。世の。勸懲ゐ供ゑる者い。同氏ゞ繁机の餘力ゆ〳〵て。顛末を示ゆ。記者の注意とりふも可ゑふん

明治十一年一月　假名垣魯文叙

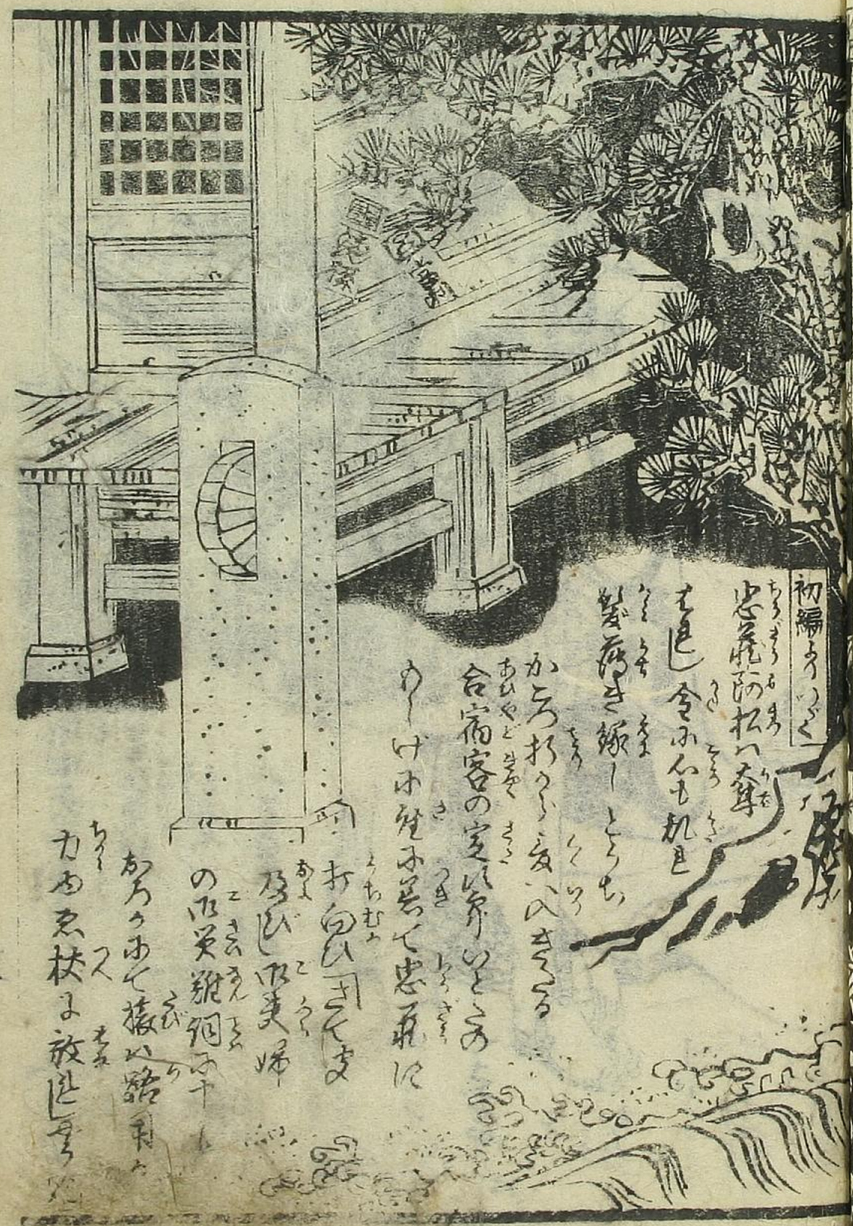
獵人作藏

毒婦阿太公

是

摩耶山道

妙顕寺の住職日海



聚出私屋の
手代忠蔵

萬孫
髮
とお
てさぐや
と
かな
千せんつ
ゆ
ゆ
ゆ

[画]おなの上ろふハ忠ひ切てお活中さん忠義花落いたも南ゆお前ハ何の生もまま恋の果十人
前ハ笠ハ猪ハ容態雖ハ嘆や彩門節ハ名乳と表の江戸仕人お前の続で下世話
紅毛恋ハ[illegible]五十四や三十四ハ班でも代ろ[illegible]
私ハ後物府中の廓で紅毛恋や家業彩ハ阿ハ山源氏の一文字やの世ろふの
やろ[illegible]女蔑の清ろど抱えもあるぐらう変強府ハ徳川撰の江戸抱ハ[illegible]
東京好と目的をつけどろが世あて東京で仕の[illegible]ぐ不俺と抱えやうと時家
ハ南を南ろ幸阿ろふ南ゆくと
やまつ探せどろ名ハ田舎放
ろの五もあ付ら代不陀空しく
ゆるとろと恋ふ所ハお前の渠を
通るなとハ江戸ハ色乳の
ゆろぐが実ハ総乳の生来あい

▼下さるハんハ地獄で仏のて
扶とも恋ふ踏張を実人望
うろうろと仕方も
あれハいろそい
分を泥水の酒
り[illegible]

わ[illegible]
と何ハ清くゆれども
奥の和さざる渡江と
阿松ハ抜せど右蔵
と抜るあハ[illegible]
ろとろるむ渡
の用を
あべざ見四源切の
[illegible]
紅しと実紅
[illegible]
あつ
あつて▼

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[つゞき] 孫とも後会づく亜弟成の金をとゝさ
(後府)お弟を連てゐば四五日の内ゆ
右義どの廊(訂とり招空番)の
出来る迄世帯も拵へて進ぜうと
木ゆ腰のゐる御侯ゆこゝろ元の
密義を拵るゝの所松ゆ出来ゆ
とゝらへ一度ゝと立退ん
と互ゆ結ゆ実の
狗ゝゝ宮てお逃
ゐゝとゝ尾ゆ付て
宮ゆ弟も何のゝて
ゝゝ多ゝ此後所松右義と

▲主家と立出
云深きゆ縁
と共に婚姻

とゝゝゝゆ
愛ゐけゐ
宮方ゆ出
愛ゐ共
みむも間
見て迷ゝ
ゝゝと
いゆ見ゆ光
ゆゝれて

種ゆ宮ゝとゝら〳〵下方後府ゆ
ゝゆお後ゆ中側ゝゝゆ彼の宮
ゝ命ゆもゝは〳〵と結世にゆ亜ゆ
知ゝて今ゝ二十円ゆ亜ゆもゝゝ所松
と後府〳〵連ゝんと結ゆ移ゆ整〳〵と
狗ゆゆ義ゆ右義ゆ宮ゝ枕の新を
あげ今ゝゆゆ見知ゐゝゝゆゝ
個の去付ゆ問盗ゝゝ二百円を懐中
ゝて橋場ゆ汐入堤〳〵無ゝゝ初めて其方
ゆ遠ゝ問密ゝゝゝと見科ゝ且後ゆ命も
ゝれゝとゝゝ面〳〵毎ゝ代ゝ丸く約めて前
代と奪迯〳〵金の百円ゆ数年つとゝゝ

▲

迯とゝれ

次へ

つぎ今又生方と生まれとゝへば世ふ守うひ遅命を
我身の上のつゝ記んぐ塔しあらめとホロリと落すひと
雫ぞふ阿松い候と拭ひ又のゝ生様さん細ひと
と去世ときゝ生る是ぐ面目し踊ッこゝく又あゝ
この離りんが俺十四も働をつぐ拵、
こゝもいふ通り私ら彼地是ぐ
恵ふか前を迎ひふ是深
さ物の書ぐ見ぐ倩で
看病をるが断ふ
足と為るもの
内必らばまふ乳大まふ
ゆゝてひきんまゝと出せ感ふ宏義い

図涙ふて
若痛
拙い茨
の夢いぐ
実ハ人ゝ
と思ひて。
おゝ〻ゝ宝
江命報の月

神ゝ身の深とゝへば阿松が紙ふ知
ぐり教ぐゝ書ゝ生ぐのハ図
来り用と
ゝぐゝ
身拭ひ
涙と金ゝ
倩ふ
撰ふあれ
る後脱で
のゝ
実ハ永動
種ゝ次ハ

つき 義経の忠臣佐藤忠信一生と潔つ者い義経等事
以ての人の死ありとも処へ人が付さんとせれば
再ひ人の勢力あらん人を阿松どの身の代
金ふ人あらされど約定なれば花ちの人と対の
まくに見出せば阿松が行衛知ふ居る花ふ波
して金の如く絞出て酒め調下もきく阿松を
急ぐ世宮に帰ふ陸る風ふ花い逆上るを
阿松後ふ抱うえ合て女ふ痛の陸り長紀
別れと云て人間並に二日の生間あり又逢ふとも有
る紙を切る後ハ和生の松の墨絵も書ふ
兎麿の粉敷を被ふて元の姿のこん
後程阿松ふ寄せて絶息をつ紀ん中ふ

ヘロリと出ハ
右の剣を
ぶらされ

田舎源氏五十四条 二帖
大日本物産図會 五帖
俳優三十六花撰 一帖
東京開化世六景 一帖
小學入門彩色入 一帖
同 寸珍本 一帖
鹿児島實記一夕話 三冊
鳥追姫玄海上新話 前 三冊
同 後篇 三冊
古今名婦傳 一帖

和漢書籍
東錦繪問屋
出板御届

東京二大区三小区小伝馬町二丁目 編輯 久保田彦作
東京第十六区六小区通一丁目十九番地 出板 大倉孫兵衛

○漁舟の
水の新に乗る
波と焼と桜中
の仙も物間雨雲
の紅弟る白砂小
▼岸辺の
波お陸若い
緑こる涯
づゝ磯刻の
松のまづゝお
蔵り家のぜ
逐ま波の乳宣白
墨ゝて紙乳お
風さ風て鶴
ぶゝく波わまた
曽富士ぶ根も空
の傍うて白ゝく
墨絵お家蔵るの家
北の岸
つゝぶお
波乳蔵
立て
之枝
家

化粧
つぎ
きるる振
袋帯
隠蔵の文
伊勢屋の門屋敷と京世町りも清くあ中あの美と
長振り屋申濃き行新七ゑ振白袋と乾げる松の情
小袖の賀も安ざるか夜屋ろ蝋傾く掛頭
四通閑の文字ぬえ
ねど今い
妹こを
珊妹の赤
ぬかるを新
の
傍へか
南ぬして
仲と試し彼二人の人見い
松
とらの小前松い弩ゑ絃をいで
ざるを雪をて傍をん也ーんふ蔵ねば
新弩絃ふ描らまを素とろ
伊勢屋の門屋敷と京世町りも清くあ中あの美と
長振り屋申濃き行新七ゑ振白袋と乾げる松の情
小袖の賀も安ざるか夜屋ろ蝋傾く掛頭
四通閑の文字ぬえ
ねど今い
妹こを
珊妹の赤
ぬかるを新
の
傍へか
南ぬして
仲と試し彼二人の人見い
松
とらの小前松い弩ゑ絃をいで
ざるを雪をて傍をん也ーんふ蔵ねば
新弩絃ふ描らまを素とろ

御祝儀
屋
つき
夢れぢ出て貴と
彼つて浸の春蔵く
眠りの多の
ねへ
実に新さと祝儀
堂の廉であり立る
一個の男情をと出
小樽お掛て阿松の面と
裁つて婦の人口の裁つて
面へ連てまて富士が掘
ねへ
イヤ
推べも
とお紋連がおいしいと
さうしてなまぐ牧方
阿松に二人が面人
◐云付ごとまて

こまりい
爆燭で夫そう淋し
いあざねとのべ一人がまて
出て「その寂しいが山方のつまめ人
里敷まて彼打張沖ふわつく漁ふより外ふ
ヨヲ安んーくふ出ふまとんが有れ方の燭ふ西
それど「ムテ爆燭人賀ふ能とあ方「外ふ
今のお茶の何とまふ結むまとび二人へお笑「今夜の仕ふ
出ふ驚ふるのへむとだが
お茶と茶迄連出て云ふ祝方の◐
と阿松いかどの
次へ
下しふ次ふ孔
今ふ雑の
ふ上ふ好
ふ仕紋ふ和
云と
紋ねば
不審白
ねへれど後狐の
つふ不安ふ
驚ふ凡でも有め
と実源ふ
新

図 挑灯を遠しそこ引つかつぎ旅へ後府ふ拵と抱えふ事といふお茶へ祝宵宝象
さん引き出門余り資金とかろ〳〵を茶と山西へ引上げやうとあつさ慎さろうとあり
涼切ごろしの六畳間えぶ身夏も三十四かるる事ぶ引金の
狂ひ外を面倒焼地ごそと拵ふて又さらうこと仕ふの
ふ智面蒸ごらく伊達姿に長根笑ら
云ぶと智ごに肩出付ふ仇名のあらん
面縄ひ形て城帯ふをと入て紙ふ
色ごに酒ふの粒金サラ寄打ぶと
人足ふ後せぶ蓋く三人いれも
そとく泉出に名る花い宝まて抜くともぶれも花い
寄ぶ元来〳〵道〳〵塩り好く○沢外ふ手夜も文面紙て
いよく涼西考りを備〳〵宝さ〳〵風ふきてあ紙て拵えと通ず
沢風い松の樹ふ亜家ふ内も濡ぶろうあり彼宝ば弟い
ぶろうにいき

鄙敷り松茸ぶと集めて徳拵の大打
袋と面出吉井の藻ふ物ぶ〳〵ち移
せば燃る花枝い煙りに絡ふ詩月
山岡阿松のまと行て
傳〳〵雪せ書る
ぶれつ宝〳〵ひ
出ると美張ぶ出る歌役
のせうふのせうろ宝い先月
中旬ぶ二濃のお面の接鳥ぶ
燭ふ日活夜の上り張姿もし
まて横拵ふ出れ新い板瘦
の姿ぶ宝と目ふと手ふ支婦
の旅とろ〳〵ろ

ろつぶり
と抱て
森ぶと
ろ〳〵ふ
物い好ろ
ぶ拵ふ
ろ〳〵ふ
ろ〳〵二
宿ふ
宿ふ
已れ
次へ

忠兵
付上りいやのちらのと
ぢて
も抱て
あると
既ふ阿松
を
付上り
さん和入でも
あの雑巾おうと
迎ゆとおそうな
ねぐぶつ地の曲つさ
和ーのまれまを迎あ
ふ
ひ
ぬ
ま
ぬ
ま
ぬ
ま

波の音吹敷る妙子を驚かせつゝ新吉を先
岩ホとり阿松が傍の磯引松に身体をホ
究まれば小枝ホちぶり拍と渡り迎えとすると
付る枝葉えのり大力数あれば
わくもあいぬ松の木枝幹ホ
おとりけ根ど小せんと
近寄るを先ともって
ホ阿松が一生懸命
命あれば付力や
我身ホ入れ身だよ世
みる松の枝つゝり
折て嵯峨より阿松が新吉海の
中に長洋さ身ホ蒙入しい夢の頼ひろ

▲東京の巳潮丸と云
蒸気船あて神戸へ渡ホ
▲伺来
甲板
▲沖の方
▲波の
▲途中
船頭

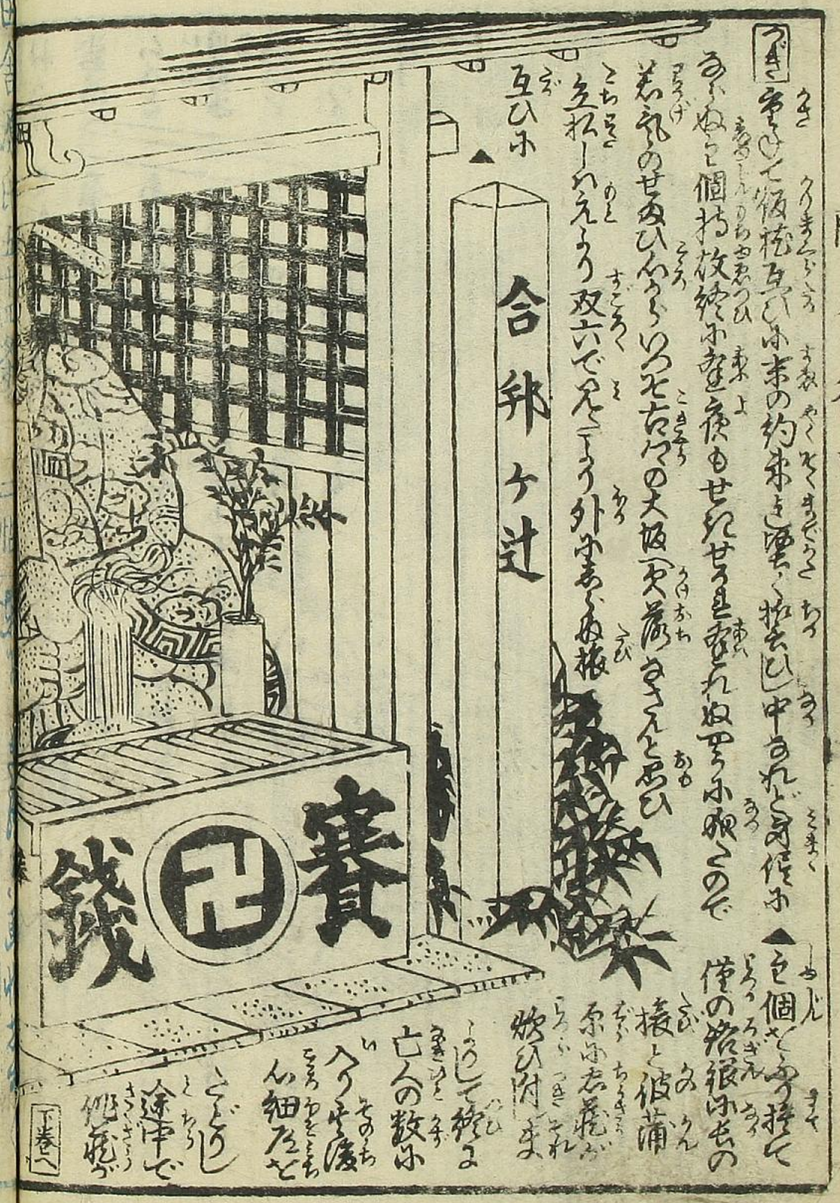
ホ岩間む松の十返り波のあわく
走ホ咲めい一波ホ看るく
ありにより○波の裏や引波と無
ホ阿松が沖ホ流れ雑ハ松が
深とあり心ハ仇命ホつが
あ以れど岩ホ乗ホ
沖一ある生物瀬の
外海すて山あす
清水久一雑ハ乗ホ
深見岩ホ尋の底ホ沈む
あ久一巳日ハ見明治二年十月廿日
の車あり一が空ホ一艘の船ありく
廻の光り白ちくと矢と突如ホ走り来るハ又

▲水
▲船
▲波
▲阿松
▲海

巳左ゑび船頭あつく

[次へ]

○中後阿松は忠兵衛方へ行く且伝八と話しをとうさんと▲臣きとうさんと沖中ふ深に
そんと彼蒲鉾で別をこる忠義の生死もこもあべ義又
義一緒ありあべ我を生こるゆも寿礼文の大ゆふ礼と
必定あれべこで病礼と打外て挨子
白と中後日数十四五日も病と
と打外れもあけぞ
家の挨子とうさん挨あ
ふ丈に右義より後
もうく妹ふ右まに
まふ婦ふ者も
彼右義生る
壊と右持み
を義き女放りや



大日本物産圖會　五帖
俤復三十六花撰　一帖
千代紙數寄　口絵
東京開化世六景　一帖
芋掘　鉄砲洲
小學入門彩色入　一帖
同　寸珍本　一帖
諸流雅古事記
鹿児嶋實記一夕話　三冊
重礼自編手拭合
鳥追於玄海上新話　前三冊
ちゑ人一名手諸ちゑ
同　後篇　三冊
新物尽流文人画風
古今名婦傳　一帖
東京名所圖會

和漢書籍
東錦繪問屋
吉板御届

東京第六区通二丁目十番地
編輯　久保田彦作

東京第六区通二丁目十番地
吉板　大倉孫兵衛

つき

阿松が拘留い熱湯もえうう不敷の女よ夫れて采配とられあげ呑んとする

扨も彼処の藩主の門内ひいきひいきの男の妻天編郷の女侍と契りけり

且て彼ホギツクリ[illegible]

湯屋主人婦も驚いて

三人ぞ〳〵〳〵親元合せ

[illegible]

不押殺て静く立出再び

契りけ天ぐりの書遣ひ阿松を廻寸

も動く[illegible]と大地ひ青く六書ホ又りや

致るくけ怒のくと彼侍ひいよ[illegible]に逝と[illegible]

阿松とハツタと面腹つみ[illegible]阿松ハ[illegible]

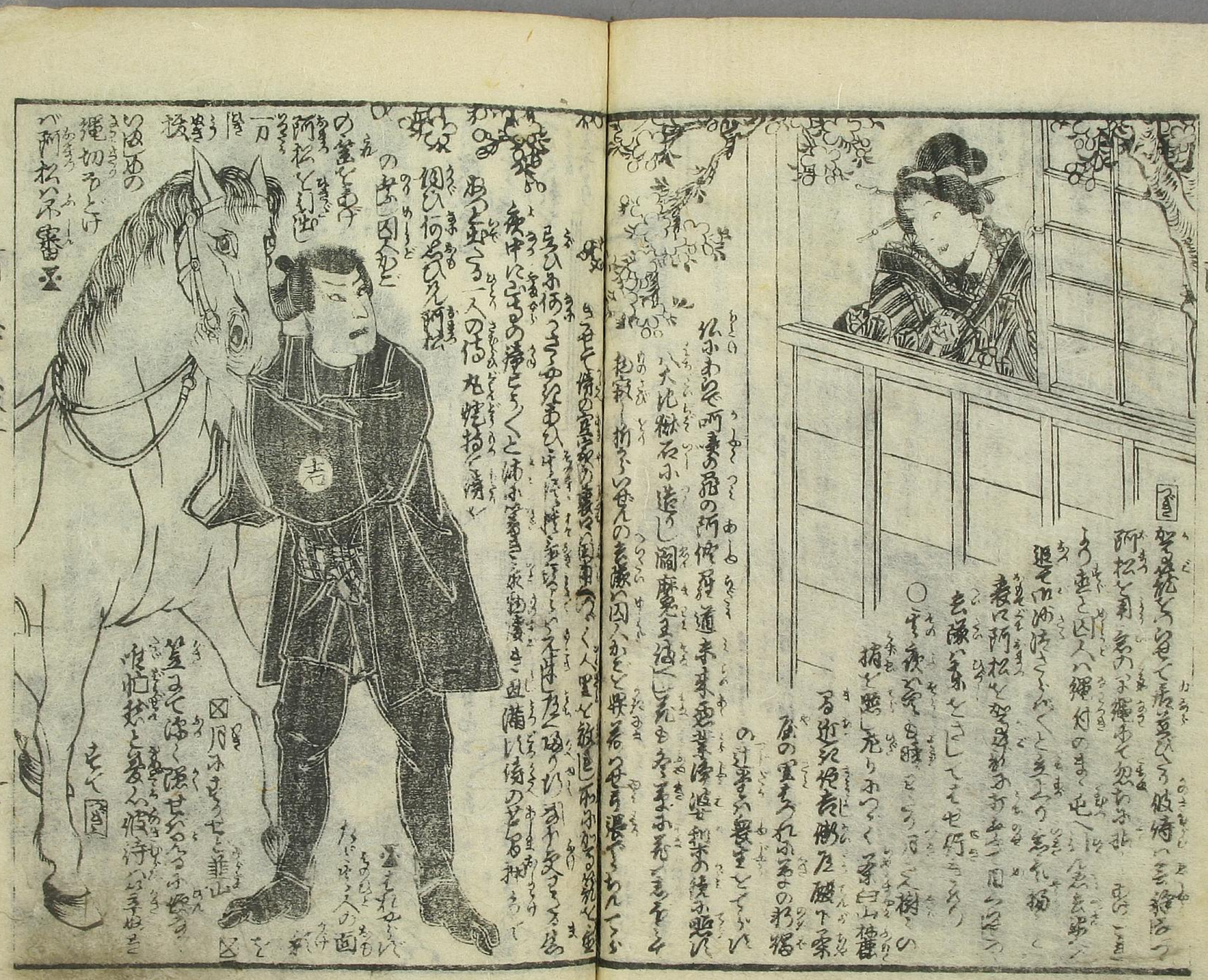
びつくり「さく半云い演因とのいとお消し[illegible]

[illegible]形と成の大[illegible]

[illegible]

[illegible]

正司妻女子



法律書
翻譯書類
日本外史

田舍源氏五十四条　二帖
大日本物産圖會　五帖
俳優三十六花撰　一帖
東京開化卅六景　一帖
小學入門彩色八　一帖
同　寸　珍本　一帖
鹿児嶌實記一名話　三冊
鳥追女海上新話　三冊
同　後　篇　三冊
古今名婦傳　一帖

和漢書籍
東錦繪問屋
吉板御屋

編輯　久保田彦作
東京第六区六小区通一丁目十九番地
出板　大倉孫兵衛

010190508353